（北アルプス地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大糸線利用促進事業
事業主体 （連絡先）	小谷村大糸線振興会議 小谷村大字中小谷丙 131 番地
事業区分	(6)産業振興及び雇用拡大に関する事業（ア 特色ある観光地づくり）
事業タイプ	ソフト
総事業費	825,000 円（うち支援金：618,000 円）

事 業 内 容

小谷村人気ｷｬﾗｸﾀｰ「たりたり」にオリジナル大糸線応援ハッピ及び帽子を着用させて様々な場所において大糸線をアピールする。各種イベント列車に合わせた駅前イベントに参加し、大糸線の知名度向上を図ることで利用促進に繋げると共に、事前に幅広く広報し地域住民にも大勢参加していただき沿線地域全体が盛り上がるように結びつける。また、村内小中学校・保育園で行う大糸線関連の授業や行事に参加し子ども達が楽しく大糸線について学べる環境づくりを行い、大糸線関連の企画していく。小谷村大糸線振興会議委員（構成員 18 名）に同デザインのハッピを着用してもらい、同様の活動や各地域での大糸線アピールと集落活性化にも繋げていく。



【小谷保育園での活動】

【目標・ねらい】

①イベントの参加し大糸線 PR
②保育園・小中学校・高校で大糸線の授業や体験活動
③SNS を通じ法被姿のたりたりを掲載し広く周知する

事 業 効 果

①11/29（土）JR 大糸線南小谷駅中土駅開業９０周年記念イベントが開催され小谷村大糸線振興会議委員がハッピ着用の上、イベント運営を行い参加者からの撮影や問い合わせに答えながら地域住民ともふれあい地域に大糸線を PR し、イベントを大変盛りあげた。その成果もあり当日は、南小谷駅イベント６５０人、中土駅イベント１０５人の参加者があり大盛況であった。

②3/27（金）小谷保育園において作成したハッピを着用の上、たりたりと園児で大糸線利用促進ためのアピール活動を行いました。先生方にもハッピを着用してもらい園児たちとふれあい、ハッピに込められた「大糸線はつづくよ、どこまでもずっと」の思いを伝え、みんなで楽しく学べました。当日は、園児２０名先生９名が参加しました。

※自己評価【A】

【理由】

R7 の大糸線鉄道利用者数は、R8 発表になるため、JR 西日本金沢支所に今年度の利用状況を確認した所、概ねR6 の 1.2 倍程度の増加があったとの回答を得たため、R6 の輸送密度から算出すると R6 が 150 人/日×1.1 倍＝165 人/日となり、、前年より 15 人/日程度増加したことになる。

今後の取り組み

観光を始め、住民の足として重要な役割を担っている北アルプス地域の大動脈である大糸線の存続や、また特急あずさの再入線を願った活動を行うとともに、多くの観光客を北アルプスへ運ぶ鉄路の活性化及び利用促進を進めるため、住民、大糸線応援隊、行政、観光事業者が一体となって、小谷村大糸線振興会議の予算を基に、大糸線の周辺景観向上と観光地への誘客を促進するための取組を行い、大糸線の利用を促進し、特色ある観光地づくりをめざす。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある